

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 学校法人安達学園 中京学院大学

1 事業の趣旨・目的

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
5月27日	久野 輝夫 陳 於華 川村 美暉 間 順子 山田 昭博 青島 秀海	日本語教室の設置運営関係者参加による22年3月までの運営計画について	1. 授業の時間の設定 2. 担当者紹介 3. 教室設定 4. 翻訳本の選択
6月24日	久野 輝夫 川村 美暉 間 順子 山田 昭博	教室運営	1. 授業スケジュール
7月15日	久野 輝夫 川村 美暉 間 順子 青島 秀海	教室運営	1. 授業教材とスケジュールの設定
8月19日	久野 輝夫 川村 美暉 間 順子 陳 於華	教室運営	1. 9月から11月までの授業について
9月30日	久野 輝夫 川村 美暉 間 順子	大学祭におけるバター作り	1. 留学生参加者の募集方法の検討 2. 自治会への告知 3. 美濃酪農連協との打

			ち合わせ
10月21日	久野 輝夫 川村 美暉 間 順子	大学祭におけるバター作り 振り返り 林檎園での研修	1. 参加者の反応検討 2. 防災訓練のように恒 例行事とするかの検討 3. 林檎園での研修参 加者の募集方法の検討 と実施スケジュール
11月26日	久野 輝夫 川村 美暉 間 順子 岡崎 雄児	林檎園研修の振り返り	1. 参加者からの意見 収集 2. 研修体験の授業へ の活用の検討
12月16日	久野 輝夫 川村 美暉 間 順子	12月から3月の研修と授業 の打ち合わせ	1. 授業の検討 参加者の減少に関する こと 2. 2月の研修の打ち合 わせ
平成22年 1月27日	久野 輝夫 川村 美暉 間 順子 山田 昭博 青島 秀海	ぎふクリーン農業研究センタ ー研修の打ち合わせ	1. 研修参加者の募集 方法 2. スケジュールの作成 3. 引率の選択
2月24日	久野 輝夫 川村 美暉 間 順子	ぎふクリーン農業研究センタ ー研修の振り返り 事業全体の振り返り	1. 研修の成果と反省 2. 将来の実施に関して の検討
3月31日	間 順子 青島 秀海	書類郵送	書類作成と関係者への 郵送

【写真】(会議風景の写真を1～2枚参考に添付して下さい。)

3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称:「食の安全を地域社会の農林、畜産業を通して学ぶ日本語教室」
- ② 開催場所 : 中京学院大学内
- ③ 学習目標 : 食の安全を地域社会の産業との交流や研修により学び、住民との交流と将来の就職への紹介の役目を目標とする。
- ④ 使用した教材・リソース: 農業はじめて book、2030 年の「食と農」を考える、隔月刊やさい畑、隔月刊野菜だより、月刊現代農業、など。

受講者の募集方法:大学内でのチラシによる募集。自治会へのチラシによる募集。

④ 受講者の総数 47 人(延べ人数ではなく, 受講した人数を記載すること。)

⑤ 開催時間数(回数) 66 時間 (全 24 回)

⑥ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語（人）	教授者・補助者人数	内容
①	10月7日 13:00~15:00	2時間	47人	中国・中国語（47人）	教授者1人 補助者1人	食の安全学習紹介
②	10月14日	2時間	47人	中国・中国語（47人）	教授者1人	酪農について 美濃酪農連協会よりの資料
③	10月17日	6時間	145人	中国・中国語（47人） 日本・日本語（100人）	教授者1人 補助者5人	バター作り
④	10月21日	2時間	47人	中国・中国語（47人）	教授者1人	バター作り後の授業
⑤	11月4日	2時間	47人	中国・中国語（47人）	教授者1人	林檎生産について
⑥	11月11日	2時間	47人	中国・中国語（47人）	教授者1人	林檎の流通について
⑦	11月12日	8時間	41人	中国・中国語（41人）	教授者1人 補助者3人	林檎園研修
⑧	11月14日	2時間	41人	中国・中国語（41人）	教授者1人 補助者1人	林檎園研修後の授業
⑨	11月18日	2時間	40人	中国・中国語（40人）	教授者1人	農作物全般について
⑩	1月13日	2時間	35人	中国・中国語（35人）	教授者1人	有機栽培について
⑪	1月20日	2時間	30人	中国・中国語（30人）	教授者1人	有機栽培について
⑫	1月27日	2時間	25人	中国・中国語（25人）	教授者1人	有機玄米栽培について
⑬	2月2日	2.5時間	25人	中国・中国語（25人）	教授者1人	有機玄米栽培について
⑭	2月3日	2.5時間	25人	中国・中国語（25人）	教授者1人	農薬について
⑮	2月4日	9.5時	12人	中国・中国語（12人）	教授者1人	ぎふクリーン

		間 (6 時 間 研 修)			補助者 3 人	農業研究セン ター 研修
⑯	2 月 9 日	2.5 時 間	20 人	中国・中国語 (20 人)	教授者 1 人	ぎふクリーン 農業センター 研修後の授業
⑰	2 月 10 日	2.5 時 間	20 人	中国・中国語 (20 人)	教授者 1 人	日本と中国の 農業について
⑱	2 月 12 日	2.5 時 間	18 人	中国・中国語 (18 人)	教授者 1 人	日本と中国の 農業について
⑲	2 月 15 日	2.5 時 間	15 人	中国・中国語 (15 人)	教授者 1 人	日本の現在の 農業事情につ いて
⑳	2 月 16 日	2.5 時 間	15 人	中国・中国語 (15 人)	教授者 1 人	日本の現在の 農業事情につ いて
㉑	2 月 17 日	2.5 時 間	13 人	中国・中国語 (13 人)	教授者 1 人	職業としての 農業
㉒	2 月 18 日	2.5 時 間	11 人	中国・中国語 (11 人)	教授者 1 人	職業としての 農業
㉓	2 月 18 日	2.5 時 間	11 人	中国・中国語 (11 人)	教授者 1 人	職業としての 農業
㉔	2 月 19 日	2.5 時 間	11 人	中国・中国語 (11 人)	教授者 1 人	授業のまとめ

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)

⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿:

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
川村 美暉	中国語(日本国)	17年	24回	授業担当
青島秀海	中国語(日本国)	10年	4回	通訳担当
間 順子	英語(カナダ)	6年	3回	事務担当

⑪ 支援者の名簿(⑦以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
丸山 伸二	美濃酪農連協	酪農・畜産業専門	2回	研究講師
杉原 亮太郎	社団法人ぎふクリーン農業研究センター	農業・果樹園・農薬などの管理と研究専門	1回	研修講師
伊藤 公平	三和観光農園	果樹園経営と流通・林業専門	1回	研修講師

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

1. 日本と中国との食に関する見解の相違などを、実際に食に関連している製造業者や安全の管理を担当している岐阜県の研究センターなどの研修での知識の獲得により実感できたと考える。
2. 食という身近な教材を使用した日本語教室の中で、実生活にむすびついた語彙を確実に覚えていった。それと同時に食の安全に対する自覚が高まった。
3. 日本における就職を希望する留学生は多いが、必ずしも農林、畜産業関係の情報が彼等に伝達されているとは考えられない。今回の日本語教室の事業を実施することにより、彼等に就職における選択範囲の拡大に寄与できたのではないかと考える。

② 学習者の習得状況

1. 日常生活の食に関連した日本語を習得した。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

1. 授業と課外活動などで、事業が経過するにつれ当初の47名の参加者が最終回には11名に減少した。継続して参加した留学生は食に関する語彙の獲得が目覚しかったが、ばらつきが見られた。しかし、食の安全に関する意識の向上は確実に見られた。
日々の食生活に役立つことを目標にしたので、その面では成功したと考えられる。

地域の関係者との連携による効果、成果 等

④ 改善点、今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状 :

文化庁と本学の経営方針との相違があり、10月以降からの予算認定であった。事業の開始が約半年遅れることにより、より多くの地域との交流の機会を逸した。来年度も継続

を認可されるのであれば、より多くの地域交流の場を活用した事業を推進したいと考える。

b. 今後の課題：

1. 今回の事業に参加した留学生の日本語は初級日本語程度であった。参加に関して、勉強課題が難しくなると参加者の減少が見られた。今後は教材のレベルを学習者に合わせて、飽きさせないような授業内容に改善する。

今後の活動予定, 展望：

1. 大学祭で実施をした美濃酪農連協とのバター作りは大変評判が良かった。予算が算出できれば恒例化にしたいと思う。

③その他参考資料

※写真は、肖像権等に配慮し、差し支えないものを添付すること。